

【資料1】生徒の最終レポートより

- 「月が一だ出た一、月が出た、あ、よいよい」こんな簡単な歌、前なら「それがどうした」ってツッコミを入れるぐらいの歌だったけど、月が出てきたことをすごく感謝した歌だった（ことに気がついた）。…自然から離れていくにしたがって、自然を敬う気持ちが薄れ、同時に人々の苦勞によって作り上げられてきた文化も薄れてきた。
- 無人島の生活では寝坊しようが黒いごはんが炊けようが、それはすべて自分の責任でした。「現代文明」は私たちに責任をとらせず甘やかしているように感じました。
- 文明から離れていると感じたのは、①太陽の動きと潮の満ち干きから時間を知ったとき、②海辺で生きたカニと貝をわしづかみして、そのままの姿のかに喰らいついたとき。

【資料2】保護者への配布資料

お子様「無人島でキャンプすんねん」と言い出したときから、幾ばくかご心配頂いているかと思います。

この授業は、松島、田中(守)、平井が担当している「総合的な学習」の授業です。最近ニュースなどにも度々登場し、耳にする機会も多いかと思えます。色々な科目にまたがり、知識の獲得だけではなく実践を伴い、生きる力を育む…云々、というあの「総合」です。

そしてこの授業は、便利な現代の生活をちょっと立ち止まって振り返ってみよう、というものです。

普段の生活の中で、道具や機械を便利に使っているつもりが、実は道具や機械に振りまわされているのではないだろうか？本当に必要なものなのだろうか、そんな道具や機械がなくなったらどんな生活になるのだろうか？そんな問いかけから始まった授業です。

では、それを実際に考えたり、感じたりできるのはどんな時か、どんな所でか、と考えた結果「無人島」で暮らしてみよう、というアイデアに結びつきました。

場所は、SISの夏のキャンプでもお世話になっている阿南海洋センターが持っている野々島です。瀬戸内海には多数の無人島が点在しています。中には地元自治体が管理して、渡船をチャーターして島に渡り、キャンプができるようになっている島もいくつかあります。そのなかから野々島を選んだのは、YMCAという青少年活動のプロのサポートとアドバイスが受けられるからです。

現代文明からできるだけ離れてみようと思っても、私達には原始人のように靴も服も捨ててはだして貝や木の実を拾う生活ができるわけではありません。相応の「モノ」も天候の悪化や急病、けがなどの緊急時のサポートも学校行事である以上必要です。YMCAの施設だからこそ思いきったチャレンジができるのです。

冬学期の間、週2回の授業を行ってきました。「生きていくこととは」という具体的な健康の維持管理、衛生管理の講義から始まり、ご飯を炊くという実習を挟みながら、文学をひもとき漂流や遭難を生き延びた人々の手記に学び、孔子の時代にすでに「機械に使われるとは困ったものよ」と文明を嘆いていることを知り、気象、天文、海洋、燃焼など科学的知識を得、そして自らがどのくらい文明の利器に頼らずに暮らすことができるか、ということを考えてきました。

この実習はひとりひとりのチャレンジです。「みんな」で協力してどうにかする、というものではありません。自分の頭で考え、自分で工夫し、やってみて失敗したら自分が我慢する、というのがルールです。

生徒達はそれぞれにとっての限界に挑戦しています。ある生徒にとっては地面の上に寝るだけでも大きなストレスかもしれません。一方で、ある生徒には地面の上で寝ることは、毎年家族で行っているキャンプと何ら変わらないかもしれません。簡易テント、ブルーシート大小、鍋、飯盒、などいくつかの備品は支給されますが、欲しい食材、持って行きたい装備などは各自が考え抜き選んだものです。たくさん持って行く人も少ししか持って行かない人もいます。客観的に見れば随分と違う食材や装備でも、それぞれの生徒にとっては同じ位たいへんな挑戦となっているはずで。

往復にスクールバスを使うなど、費用はできるだけ抑ええるようにしました。ご心配は尽きないかと思いますが、私達教員も彼らのチャレンジを精一杯サポートします。ご理解頂ければと思います。

それぞれがどんな経験を、何を考え、何を心得のか私達にも想像できません。帰ってきた彼らの土産話を楽しみにお待ち下さい。帰宅後に彼らの「文明論」を聞いていただければ幸いです。

【資料3】授業のスケジュール (2004)

- ① オリエンテーション (1時間)
- ② 生物としての「ヒト」が生きていくために：食料、体温、休息、安全 (4時間) 保健
- ③ 書物からひもとく「生きる」 (2時間) 国語
- ④ 「文明論」 (2時間) 国語
- ⑤ 科学から学ぶ「海」「天気」「燃焼」「天文」 (6時間) 理科
- ⑥ 実験「ご飯が炊ける様子の観察」 (1時間) 理科
- ⑦ 具体的準備「持ち物を考える、自分の行動を考える、その他」 (7時間)

【資料4】フィールドワークのスケジュール

1日目	7:30	学校集合、出発
	12:30	海洋センター着、準備
	14:00	無人島へ移動、 設営、各自の活動
2日目	終日	各自の活動
3日目	終日	各自の活動
4日目		各自の活動
	- 15:30	海洋センターへ移動
	16:30	入浴
	18:00	夕食
	19:00	ミーティング/レポート作成
	22:00	消灯
5日目	7:30	朝食
	8:30	備品返却、後片付け
	10:30	海洋センター出発
	15:30	大阪着



田中 守 たなか まもる 千里国際学園注等部・高等部 教員/理科



1959年大阪生まれ。京都教育大学理学科卒業。卒業後、京都府下の公立中学校の理科教諭となるが、退職。青年海外協力隊に参加し、アフリカ・ケニア、マチャコス県のミクイニ・セカンダリースクールで、理科教育の指導にあたる。帰国後、千里国際学園設立準備室に勤務。千里国際学園開校にともない、理科の教諭として現在まで勤務。趣味はログハウス作り。整地から初めて10年を超えたが、いまだに完成していない。



「総合的な学習」の一つとしての「無人島キャンプ」の報告です。反対勢力(?)になるだろう保護者への事前のメッセージも、資料につけていただきました。感謝。

国語・理科・体育の先生が共同でカリキュラムを作って、新しい教育を目指したこのキャンプ。参加生徒が多くものを得たのが、言葉や写真からよく分かります。まさに、総合的な学習の雛形ですね。大変ですが！

それにしても、数年前、教育フェアでロサンゼルスに来た時にログハウスの鍵を買って帰ったのに、まだ完成していない？ 田中先生、キャンプ同様、ログハウス作りを楽しんでますね。それが大切！

千里国際学園 中等部・高等部
〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16
電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055
HP:www.senri.ed.jp, E-mail:admissions@senri.ed.jp